

2023, 1月21日オープンミーティングの報告

- 2023.1.21.(土) 15:00-16:30
- zoom
- 参加費 無料
- 発表者
松浦早希 神戸市公立中学校教諭
- 【内容】「デンマークで受けた対話型授業の内容と日本での実践について」

参加者 一般参加 10名、運営委員 4名 計 14名

発表要旨

デンマークに留学して、その後教師になったので、デンマークで何を学んで、それをどう生かしているかを紹介したい。

Q1:「デンマーク」と聞いて思い浮かぶイメージは？

いいなと思うところ (共感)

オープンサンド、自然が豊か、建物が美しい、アンデルセン、キェルケゴール、ロイヤルコペンハーゲン、福祉が充実している など

疑問に思うところ (反対)

物価が高い、税金が高い (デンマーク人はもっと払ってもいいと言っている)

1. 自己紹介 公立中学校で保健体育科の教員

デンマークとはデンマーク体操部のデンマーク体操の研修でデンマークに行き、その後留学してフォルケホイスコーレ (デンマーク固有の教育機関) で、学ぶ。

デンマークに惹かれた理由:

デンマークと日本の体操の考え方の違い。

多くの国からの留学生がいて国際交流ができる。

2. フォルケホイスコーレの説明

Google スライドを用いて、疑問などを書き込んでもらう。

Q2: フォルケホイスコーレを知って疑問に思うこと

- ・年寄りも参加可能ですか。例えば70歳以上とか。
- ・幅広い年齢や国籍の人と一緒に学ぶ機会は学校 (特に日本) にはあまりない特徴です

テキだなと思いました

- ・能力やバックグラウンド関係なく入学ができるのが素敵
- ・国際交流がとても楽しそう
- ・学費は？
- ・語学はどれくらい話せないと厳しいですか？

など

3. 留学先での経験

- ① 日本とデンマークでの体操（実技）の授業の比較
- ② 実際の実技の発表
- ③ タンブリングセンターの紹介
- ④ 座学：毎回、先生の提示するテーマに沿って対話する（日本の取組みを説明する場面が多かった）

4. 日本での実践

- ① 体育（実技）・保健（座学）の授業では、授業中必ず一度は対話を取り入れている
- ② 道徳の授業。目標は P4C を取り入れた授業
- ③ 課題に感じていること：教材研究をしっかりとしておく。配慮が必要な生徒を想定しておく。
- ④ 毎回の授業で気をつけていること
 - ・指導案を作成する
 - ・P4C で出た意見は記録しておく
 - ・反省点を指導案に記入しておく
 - ・別のクラスで同じ授業をするので次の授業に生かす

Q&A

デンマークと日本との違い

Q：デンマークと日本との違いがよく分かったのですが、松浦さん自身としては？

A：いろいろ難しいことはあったが、対話して分かち合えたこと・理解し合えたことがよかった。日本ではそのような感覚はあまりなかった。色々な場面で、「なぜ」と聞かれた。この経験が生徒と接する場面で生きている。また、デンマークで言葉がうまく話せなかった自分を先生がどうフォローしてくれたかを思い出しながら生徒と接している。授業そのものだけでなく、生徒一人一人が違うということを前提にして、どう関わるかということ、デンマークの先生から学んだ。

Q：タンブリングセンターでのベルの話が面白かった。何か新しいことが出来た時にベル

を鳴らすということは、色々な場面で使えると思った。何か新しいことが出来た時にみんなに知らせるという意識を子どもが持てるのはいいなと感じた。日本と比べた時にデンマークの国民性にはなじみのないもの者もあると感じたが、こういうことは今の学校でも使えそうだとか、子どもたちと一緒に考えて言ったらいいなと思われることがあったら、教えて欲しい。

子どもへの対応の仕方

A：学校になじめない子も何かきっかけがあつてのことと思う。しかしその子がその内容を話せるかという難しい。言いたくないのか、言えないのか、自分の言葉にすらできないのか、ということがあがるが、自分の言葉で伝えるということが表現として大事だと思う。このことを理解し合えると、自分の思っていることを言ってもいいんだということになって、学校に足が向くということがある。しかし、このことも集団となるとやはり難しいけれど、デンマークだと参加者の出身国が 28 あつて、言葉も様々で、年齢もバックグラウンドも様々で、分かち合うのが難しかった。しかし日本では日本語だけなので、それはやり易くて、生徒に色々な形で問いかけやすい。それが分かってくれて、言ってもいいんだとなってくると、お互いが理解し合えるようになる。デンマークではしゃべることができないという状況で、ダメだというのではなく、それではどうする、どうしたらいい、やりたいんでしょ、という対話がデンマークでは繰り返されていた。このことが自分には生かしている。

道徳での P4C

Q：道徳で P4C をどう使っていますか。

A：教科書の教材を使う。教師が本文を読む。読む際には工夫している。ワークシートを配る。猫ちゃんマークとはてな？を使って、共感したところと疑問に思うところを書いてもらう。個人で考えたら、次にグループで考える。グループで考える時には別のシートに書いてもらう。自分で考えたところは白紙でも、グループで考えたことは書いてもらう。その後、グループで発表者を一人決めてもらって、疑問の部分だけを言ってもらう。これらをすべてパワーポイントで打っていく。他にありますかと聞いて、あれば言ってもらう。出てきた問いを皆で少し考えて、問いを決めて話し合いをする。話し合いの中で学校で起きている問題につなげたり、教材の内容項目にふれたりしながら対話を終わる。最後に感想を書いてもらう。道徳の授業以外ではなかなか P4C を取り入れられない。

Q：全体で円になって対話することはないのですか。

A：それはしていない。学年でグループカウンターを取り入れていて、総合の時間などで取り入れている。

Q：デンマークと日本との教育の違いに興味があった。体操あるいは部活の場合、日本だと競争という側面が強いと思う。勝ちたいから頑張るみたいな傾向がある。それに対し、デンマークでは、自分で目標を設定して、それを達成したら、それを皆で喜ぶというサイクルを作っている。このことがモチベーションになってくると、競争の必要のない授業ができてくる、ということを感じました。質問ですが、中学校で道德の時間に P4C をする機会があって、その時中学生は対話に慣れていないなという感じがした。そもそも発言しないとか、発言する人が限られてくる、相手に質問ができないということをすごく感じた。このような場合にどのようなアプローチをしているのでしょうか。

A：発言できないような子には、聞いているだけで言い、最後のワークシートで、こういう意見も出ていた、自分で気がつかない発言もあったといったようなことを書いてもらう。いきなり発言を求めるのは、ハードルが高いので、徐々に進めていく。スモールステップの感覚で進める。対話について慣れてないということに関しては、私もそう思っている。ただ、学校として対話を取り入れようという方針があるので、本校の生徒は対話に慣れている。生徒同士が対話に対してどういうスタンスかは皆分かってきているので、対話はしやすくなっている。校内研修では、対話はどこかの授業だけでしていてもしょうがないので、全教科で対話を取り入れていくにはどうしたらいいかということが話題となった。すべての教科で対話を取り入れていこうという方向になっている。

P4C をする上での工夫

Q：P4C をする場合、教師の環境を変えることはありますか。あるいは何か意識していることはありますか。

A：授業時間が短いということもあって、特に変えることはない。中学校の場合、各クラス担任が様々なことを配慮して、机の位置などを考えていることもあるので、変えることは難しい。ただ、生徒中心に発言ができる工夫はしている。ただ、授業中は教卓の前に立たないように注意している。そうしないと、授業者と受講生という固定的な関係ができてしまうので、それを避けるようにしている。

デンマークと日本の教育の違いの根本にあるものは？

Q：教育に対して大事にしていることが、デンマークと日本では根本が違うのかなという感じがする。デンマークの場合（アメリカなどもそういう感じだが）、なぜゆったりとした雰囲気、子ども一人一人を見ていく余裕があるのだろうか。日本でもそうしているはずなのに、子どもの立場からするとそうではないような気がする。

A：フォルケホイスゴーレの場合、18 歳以上の人が自由に参加している。日本の専門学校のように、何か資格を得ようとして来ているわけではない。日本の学校とはなかなか比べ

られない。フォルケの場合、年齢、出身地も様々で、「同じ」ということがない、あるいは少ない。そういう中で一緒にやっていくということが求められている。社会というものはそういうものであるという自覚がある。そういう中で、自分は何ができるのか、人のために何ができるのかを考えている。こういう状況の中にいる先生は、子どもにもそういうことを伝えることができる。子どもを一大人として見ている面がある。

C：日本の場合は、受験勉強と教科中心のあり方に問題があるのではないか。デンマークの場合、宿題も試験もないと言われるが、日本でそのようなことができるだろうか。

C：言葉を通してお互いのことを分かり合える場がないのかもしれない。そのような場がないのが、色々な問題、例えば、長欠児童の問題、を生んでいる一つの原因なのかなと思って聞いていた。とするならば、P4C のような対話型学習を取り入れていく値打ちがあると思う。言葉を使わなくても学校生活を送っていけるということがあるということが日本の現状かもしれない。

文責 梶形公也